八中3年人権だより

徳島市 八万中学校
３年生　第６号
2024年５月20日
編集・文責 吉成正士

（第５号からのつづき）

一人ひとりが見てきた景色

■3年生になって初めての全体学習。皆の発表を聞いて思ったことは，自分自身の経験や感情を話している人が多いということだ。発表できなかった自分が言うことではないけれど，以前は「差別はよくない」などの抽象的な意見を言っている印象だった。他の人と内容がかぶることもあった。でも，何度も回数を重ねるうちに，だんだん個人のことを話す人が増えてきた。悩み，不安，経験してきた別れ…。それぞれの意見に体験があるからこそ，本心として受け取ることができるし，体験を話してくれることで，その人についてもっと知ることができる。そうすれば，他人を，世界を，そして自分自身を多方面から立体的に見つめることができる。人権学習は私にとって，一人ひとり今まで見てきた景色が違うことをあらためて感じるきっかけになった。みんなの意見を聞くだけでなく，意見の裏にあるその人の生きた背景をも尊重することが本当の人権の尊重で，この学習の意味だと思う。　6組小松もえ花

そうです。いじめや差別がいけないことなんて，たいていみんな知っています。それでも，いじめや差別は起きてしまう。知っているだけでは，間違いは起きてしまうわけです。なぜか。

人が持つ差別意識はなくせないのでは，と私は思います。私も，あなたも。それが人間だからです。でも，差別はなくしていける。ゼロにはならないかもしれないけど，限りなくゼロに近づけることはできるように思います。そのために必要なこととして，ハード面とソフト面があるのだと思います。

ハード面としては，私たちの身近な生活のユニバーサルデザイン化や，起こさせないための法整備。

そしてソフト面として，この人が言ってくれている，皆さんが成長してきた人権学習です。知識は大切です。でも，知ってるだけでいじめや差別はなくなりません。ではどうすればいいのか。ずっと言ってきた，「自分を語る」ということだと思うのです。語り，知ることは，互いの違いを明確にし，相手を認めることになります。自分を知ってもらうことは，自分が認められることになります。その連鎖はそこに，「互いの人権を認め合う」ことを実現させていくように思うのです。そしてその習慣性が身につくことによって，言葉の裏にあるものを想像する力が鍛えられていきます。これは，中学生年代のこの時期にやっておかないと，後ではなかなか得られないもののように感じています。とはいえ，まだまだ皆さん全員の「自分語り」を聞いたわけではありませんよね。無理矢理語らせるものではありませんが，扉が開くまで，ノックしてみる意味はあるのではないかと思っています。扉を開けるのは本人の意思ですが，「一緒に行こう」と，声をかける意味はあるのではないかと思います。

悲しみは大きく進化できる壁

■僕はこの人権学習を通して，みんなたくさん別れがあったと分かりました。僕も別れはあったのでよく分かるのですが，なぜか少し心残りがあった気がします。おじいちゃん，おばあちゃんが亡くなったとき，僕はその人を大切にできていたのだろうかと，つい考えてしまいました。

峠はみんなは受験が多かったけれど，自分は中学3年に入ってからもう峠だと思いました。なぜならもう中学最後のことがたくさんで，つらい思い，寂しい思いをするかもしれませんが，そのことを通して大きく進化できるような壁だと思ったからです。

吉成先生や酒井くんが言っていたように，努力は必ず報われるわけではないことを実感しました。自分だって努力してもできないことはたくさんあるし，自分の言っている努力も本当の努力と言えるかと言われると，難しいです。でもだからといって初めから諦めるのは違うと思います。小さな積み重ねが時には大きな力になることもあるので，努力することは大切だと思いました。　3組山本健士朗

「心が揺れたときは，大きく成長できるチャンス」

「心が揺れる」というのは，分かりやすく言えば「喜怒哀楽」です。本当にうれしくて大喜びしたときも，本当に腹が立って悔しい思いをしたときも，本当に悲しくて泣いてしまうほどの思いをしたときも，本当に楽しくてウキウキしたときも，それを，「成長のチャンス！」と思えば，人間としての本当に大きな成長につなげられます。でも，そんな意識がなかったり，怒りや悲しみを単にぶつけるだけになってしまうと，貴重な「成長のチャンス」を逃してしまうことになりかねません。

「心が揺れる」機会に恵まれないこともあります。でも，恵まれたなら，そんな機会をチャンスに変えてしまうことです。体育祭もそうです。たくさんのテストもそうです。人権作文発表もそうです。日々の授業での発表もそうです。一つ一つの試合も，演奏もそうです。最後の大会ならなおさらです。泣きたいこともあるでしょう。悔しいこともあるでしょう。でも，その一つ一つの機会を，「大きく成長できるチャンス」に

変えてしまうことです。乗り越えられないことはありません。それは，これまで人権学習で出てきた多くの人たちが教えてくれます。

そして，乗り越えたあとの笑顔です。たとえどんな結果でも，解き放たれたときに見せる笑顔は，正真正銘の笑顔です。そんな笑顔に心が癒されます。発表を終えたあとに見せる笑顔がそうです。「よく頑張ったね」と，褒め称えたくなります。

いつかこの先，苦しいとき，悲しみに暮れたとき，我を見失ったとき，自暴自棄になったとき，この人権学習を思い出してください。自分を信じ，仲間を信じ，伝えること，つながること，共に生きていくことをの意味にたどりつくはずです。そうすれば，自ずと自分の進む道は見えてくるはずです。

峠は人生，すべてを楽しみに

■私は今日の人権学習の班の子に，「別れとは悲しい言葉じゃない」と言ってる人がいて，その言葉が心に残りました。私は今までは別れは大切な人たちと会えなくなることで，良いことなんてない，悲しいことだとばかりだと思っていました。でも本当はそうじゃなくて，会えなくなることはもちろん悲しいけど，良いこともあるんだと思いました。別れによって新しい見方ができたり，新しい世界が広がったりするんだなと思いました。皆それぞれの高校に行くので，1年後には別れが来てしまうけど，ただただ悲しい別れじゃなくて，いい別れができるようにしたいと思いました。私は今回の人権学習で，みんなにとっての峠を聞いて，峠とは人生のことだと言ってる人がいて，確かになと思いました。きっと嬉しいことばかりじゃなくて苦しいこともあるだろうけど，それを含めて楽しんでいきたいです。

3組伊達日向子

苦しいことや悲しいことは，放っておいても突然やってきます。そのことが「大きく成長できるチャンス」であるならば，逃げないことです。目を背けないことです。正面から向き合い，迎えうつことです。そして，チャンスを自分のものにすることです。皆さんは，それができる存在です。

南アフリカ共和国では，長らくアパルトヘイトという，人種隔離政策が行われていました。そのもとで黒人は不遇を強いられてきました。ネルソン・マンデラという黒人リーダーが，その政策を撤廃しようと何度も何度も立ち上がります。国家反逆罪で終身刑にもなり，27年間獄中生活を強いられることもありました。それでも最後には，大統領にまでになります。その大統領就任演説です。

わたしたちの持つ最も根深い恐れとは，自分が不出来な人間だと思っていることではない。
わたしたちの持つ最も根深い恐れとは，自分が自分でも予想できないほどパワフルな存在であることを認めることだ。
わたしたちが最も恐れるのは，わたしたちの中の闇ではなく，わたしたちの中の光である。
自分が才能に溢れた，すごい人間だって？とあなたは自問するかもしれない。
しかし，そうでないとしたら，あなたは一体何者なんだ。
あなたは，神の子である。
あなたのやっていることは小さいことかもしれない。
世界を変えるには何の価値もないことと思うかもしれない。
しかし，周りの人のことを気にして，自分を小さく縮こませてしまうことに，何の良さもありはしない。
わたしたちは，皆自分の内なる神の栄光を体現するために生まれて来たのだ。
繰り返すが，それは何人かの選ばれた人の内にあるものではなく，すべての人々，ここにいる全員，一人ひとりの内にあるのだ。
あなたの光を外に向けて輝かせることは，他の人にもまた，同じようにすることを勧めることになる。
わたしたちは，この根深い恐れから自分を解き放つことで，わたしたちは，ただいるだけで，他の人々をも解放することになるのである。

（1994年南アフリカ共和国大統領就任演説より）

できないことに挑戦しようとするなら，それは全力で頑張ってみることです。でも，できないことに目を奪われてしまわないことです。奪われると自己嫌悪になってしまいます。「自分はできない存在だ」と思い込んでしまいます。そんなことはありません。できることはいっぱいあります。できないことに目を奪われて，自分という人間の価値を下げてしまうことほどもったいないことはありません。皆さんは，できることがいっぱいある可能性に満ちた存在なのですから。

このあと進路について学び，調べます。これも自分の生き方について考えるという点において，大切な人権学習です。その後，人権作文を書きます。これまで学んできたことについて，「自分を語る」ことについて，思う存分書いてください。そしてあらためてみんなで語り合いましょう。（おしまい）